

石と一ん・さーくる

No.94

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子) 2016年1月15日 発行
 事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941
 ホームページ <http://niigata-sekibutu.vox.jp>

石 仏 散 歩

旦飯野神社の御神霊石

阿賀野市 岩 野 筈 子

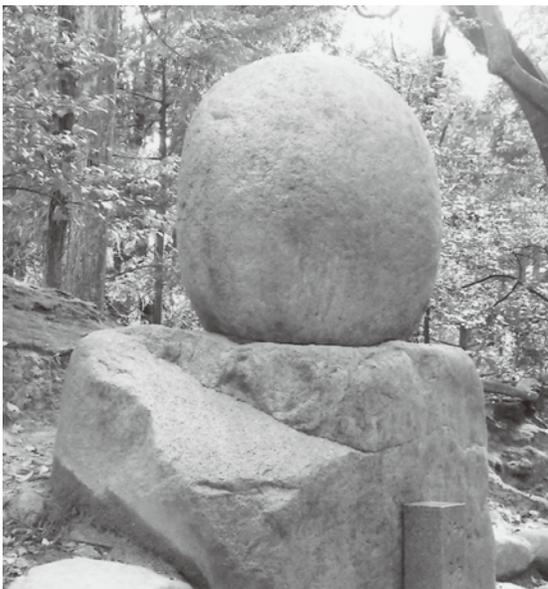
あさいの 旦飯野神社(旧北蒲原郡笹神村)の歴史は旧く「越後國蒲原郡白川莊山浦郷宮下村に菅田別尊(応神天皇)を御祭神として奉斎する。(中略)神社の峯(山浦城址)には古き神池、泉水あり。大門(随神門)大鳥居前は北陸道、南方に菱嶽、東方には出湯の里、後方は五頭山に当たる。(後略)」「(『延喜式内旦飯野神社』「山浦郷と八幡宮」一九九二年第一九回文化まつり特別展)とある。

御神霊石は本殿の真後ろに安置され、高さ・横幅は約一丈、奥行きは約七〇センチ位の巨大な丸石である。御神霊石の設置は、旦飯野神社の名譽宮司の鈴木吉彦氏が(七四歳)が昭和五十七年(一九八二)に「天燈」の御霊石としての設置を総代の皆様に囀り、折居集落の田村氏により奉納された丸石に遷霊をし、鎮座しているという。

旦飯野神社には「天燈」という伝説があり、天から明るい火の玉が神社を直指して降りて来て追いかけて来ても神社のどこに降りたかはわ

からないという。これまでに多くの人々の目撃があり「郷内外の氏子より、夏から秋口の夜中に旦飯野神社の森に、天から二〇〜三〇センチ位のオレンジ色をしてトロ、トロと火の玉のようなのものが、ゆっくりと降りたのを見たという人近年まで幾人もある。中国の古書に『神霊の宿る所に燃ゆる玉が下りる云々、それテントウと云う』と書かれてある。」(同前史料)

阿賀野市笹神地区は山中から丸石が出土する例が多い地とされている。他に、折居集落の「大石様」、下山屋集落の「化け石」など、大石伝説が伝承されている。



中越地区見学会参加記

長岡市 服部 優美

九月二十六日、中越地区見学会の日は朝から雨模様でしたが、集合場所のネーブルみつけへ着いたときには少し晴れ間も見え、まずまずの日和となりました。

参加者は十八名、マイクロバスでまずは元町中通りへ向かいました。ここは見附発祥の地と呼ばれ、かつては三国街道に接続する交通の要所だったそうです。そこには見附で一番古いと言われる米山



元町中通りの石仏群に見入る参加者

塔がありました。

途中、市民の森に立ち寄りお茶をいただいた後、旧村松街道矢櫃越の樹齢何百年という杉の木の根元にひっそりと佇む双体道祖神を囲んで記念撮影をしました。細い峠道ですが、かつては村松藩参勤交代の重要な道だったそうです。

午後からは刈谷田川沿いの漆山地区を回りました。その中で私が一番印象に残ったのは、葛巻町の馬頭観音三尊像です。脇像に毘沙門天（？）、邪鬼を踏みながらツンとすましたお顔は彫りが深くゴージャスな雰囲気でした。光背も天に伸びたなめらかな曲線美を描き、表面についた黄色の苔が光に反射し金粉のように見えたほどです。

そこからほど近い天満宮裏のうっそうと草の生い茂る崖を駆け落ちないようそろそろとよじ登っていくと、旧堤防上に湯殿山、月山、羽黒山、米山塔など山岳信仰の碑が五基ならんでいました。多くの米山塔は米の形に似た自然石を使い、米山の方向に向かって建っていると聞き、古人のセンスと信仰の純粹さを感じ



馬頭観音三尊像（葛巻町）

ました。最後に、個人の方が立派な祠を造り祀られている双体道祖神を見学しました。杯と徳利を持った祝言像で鳥居もあり、幸せそうなお像でした。

今回たくさん石仏を見学しましたが、見附地域にはまだまだ多くの古い石仏があるそうです。また、見学会のもう一つの楽しみである昼食も、古民家で新そばと精進料理を堪能でき、幸せな一日でした。

県博で「石仏の力」展を拝見し感動して入会、石仏のセの字も何もわからない私ですが、これからも魅力的な石仏さんとの出会いが待っていると思うとワクワクします。素敵な見学会を企画いただいた清水さん、宮島さんに感謝申し上げます。

寒念仏の里・村松の 石造物を訪ねて

—下越地区見学会報告—

弥彦村 柏原路子

十月二十六日、県民俗学会前会長・駒形彪さん（村松在住）を講師に迎え、会員十四名のほか、村松郷土史会会員六名の皆さんも一緒に、五泉市旧村松地区をマイクロバスで巡った。

講師によれば、「旧村松地区には石仏が約四〇

〇基と多いが、中でも寒念仏供養塔が最も多く約一五〇基ある。ほかにも庚申塔が七〇基、湯殿山塔が二〇基、日待・月待塔が一



塚の上に立つ寒念仏塔群（寒倉塚）

七基あり、年代の判るものでは江戸後期に造立されたものが多い」というお話であった。西蒲原に住む私は「寒念仏供養」は聞きなれない民間信仰であったが、山に囲まれたこの地では修験道の行者たちの活動が盛んであったのではないかと感じられた。特に下戸倉など能代川上流の谷あいの集落には「寒倉（カナクラ）塚」とよばれる寒念仏や庚申塔など、多くの石造物が塚のようにまとめられている所があった。場所を移動させて集めたわけではないというお話はとても興味深かった。

泉福寺・永谷寺・勝泉寺はじめ墓地などに中世の五輪線刻塔婆があった。県内の他ではあまりみられないという板碑であり、村松ではこの地域独特のものではないかと考えているという。

もうひとつの目玉は、昨年のフォーラムで、渡部浩二さん（長岡市）が「五泉市永谷寺の無縫塔（オボト石）について」発表された永谷寺の「オボト石」であった。伝説が残る雷山の麓を流れる早出川沿いに上って、「丸石」が上がる東光院淵は川がややゆるやかになった場所であった。そこから山の方へと次第に道が細くなり、木々に覆われた永谷寺に到着。大小の丸



五輪線刻塔婆を解説する駒形彪氏

石が歴代住職の墓石として使われている。橘崑崙著『北越奇談』で「古の七奇」のひとつに数えられ、鈴木牧之の『北越雪譜』にも紹介されていて、当時世間では話題になっていたようである。同寺の入口には、村松で最も古いといわれる宝永六年（一七〇九）の庚申塔があった。思わず微笑んでしまった石造物にも出会うことができた。上戸倉長寿院にある「カニ供養塔」、これも寒念仏のひとつであるという。

実に盛りだくさんの楽しい見学会であった。企画・進行してくださった下越事務局の岩野さん、水戸さんに紙面でお礼申し上げます。

事務局だより



◆第19回石仏フォーラムを開催

去る十一月十五日(日)、恒例の石仏フォーラムが新潟県生涯学習推進センター(2F大研修室)において開催されました。参加は二十八名(一般三名含む)。以下、その概要を報告します。

第一部の公開講演会(10時~12時)では、佐藤雅一氏(津南町教育委員会)を講師に招き、「人と石との出会い―カタチの意味と機能―」の講演がありました。専門の考古学の視点から日本人と石とのかわりを説き起こした上で、後半に現行民俗の石造物との関係にも言及されました。例えば、道祖神信仰で確認できる男根石造物の中に、縄文時代の石棒が



好評だった佐藤雅一氏の公開講演

混在祭祀される事例をあげ、それを「無意識の中の再利用」と位置づけ、そもそも男性/女性という人間の思考原理は不変のもので、縄文期から現代

まで連続している可能性を指摘されました。豊富な画像と熱い語りも好評でした。

午後の調査研究報告では、三名の会員による発表がありました。村田稔氏(新潟市)の「幕末の親孝行」は明治初期に越後府や各県で盛行した長寿(米寿)者に対する報償政策についての検討、水島健吾氏(上越市)「若狭・小浜の地藏盆を訪ねて」は夏の有志見学会での子どもたちの地藏盆を中心にした報告、渡邊三四一氏「越後丸石紀行―ご神体と奉斎物のいろいろ―」は県内約二〇例の丸石信仰を概観整理した調査報告でした。この後、若干の情報交換を行い閉会しました。

◆『石仏ふおらむ』原稿募集中!

現在、会誌『石仏ふおらむ』第12号(平成28年3月発行予定)の原稿を募集しています。県内の石仏について調査・研究した成果や短い報告も大歓迎です。執筆希望の方は早めに左記へ連絡下さい。
〒945-0042 新潟県柏崎市長浜町5-146
池田 孝博 Tel.090-3512-2863

◆珍しい見附の馬頭観音の脇侍像

服部優美さん報告の見附市の馬頭観音三尊について補足です。脇侍二尊のうち、向かって左は毘沙門天(宝塔を持ち邪鬼

を踏む)、右は馬鳴菩薩(宝珠を持ち馬に乗る)でした。馬鳴(めみょう)菩薩は養蚕信仰にゆかりのある仏とされます。



毘沙門天(左)と馬鳴菩薩(右)

◆今年度会費未納の方へ

今年度会費未納の方には振替用紙を同封しました。早めにお振込み下さい。

編集後記



あけましておめでとございます。雪のない正月となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。こんな年は冬枯れの路傍に、今まで気づかなかった石仏を発見できそうです。今年も新たな出会いを楽しみたいと念じています。

(事務局)